

北海道新幹線新函館_(仮称)駅開業に関するアンケート調査結果(速報)

平成20年6月4日

北海道新幹線開業はこだて活性化協議会

(1)調査期間

平成20年4月21日(月)～5月23日(金)

(2)調査方法

○函館商工会議所会員事業所のうち従業員を有する法人等へ郵送配布

○北海道新幹線開業はこだて活性化協議会所属企業・団体へ持参配布

(3)回答者属性

①標本数 1,068人 (依頼数2,148人 回収率49.7%)

②属性

性別

	件数	構成比
男性	711	66.6%
女性	237	22.2%
無回答	120	11.2%

年齢

	件数	構成比
10代	43	4.0%
20代	69	6.5%
30代	134	12.5%
40代	203	19.0%
50代	317	29.7%
60代	218	20.4%
70以上	67	6.3%
無回答	17	1.6%

回答基準場所

	件数	構成比
自宅	462	43.3%
職場	506	47.4%
無回答	100	9.4%

住所

	件数	構成比
函館市	984	92.1%
北斗市	40	3.7%
七飯町	17	1.6%
その他	2	0.2%
無回答	25	2.3%

当アンケート調査結果の詳細版については、現時点で調査中の観光客向け調査結果とあわせ、7月上旬のリリースを予定しています。

本件担当: 函館商工会議所 地域振興課 黒川、永澤 TEL0138-23-1181 FAX27-2111

Q1. 国内の新幹線の乗車経験についてお答え下さい。

n=1,068

	件数	構成比
この一年以内に乘った	356	33.3%
一年以上前に乘った	604	56.6%
一度も乘ったことがない	100	9.4%
無回答	8	0.7%

【POINT】

2007年9月に北海道新幹線建設促進期成会（札幌）が行った同じ項目の調査では、札幌圏在住者の新幹線乗車経験は以下の通りとなっています。

○この一年以内に乘った 12.6%

○一年以上前に乘った 62.9%

○一度も乘ったことがない 24.6%

今回調査と比較すると、「一年以内の乗車経験」と「一度も乗ったことがない」の数字から、函館圏在住者の利用経験は札幌圏在住者より豊富であり、新幹線の利便を体感されている人が多いということが伺えます。

Q2. 現在、関東地方への出張や旅行頻度は、平均するとどの程度ですか。

n=1,068

	件数	構成比
週に一回以上	5	0.5%
月に一回以上	91	8.5%
一年に一回以上	562	52.6%
十年に一回以上	244	22.8%
十年に一回未満、または行ったことがない	140	13.1%
無回答	26	2.4%

Q3. 現在、出張や旅行で関東地方まで移動する際に、もっとも多く利用している交通機関はどれですか。

n=1,068

	件数	構成比
鉄道	83	7.8%
航空機	852	79.8%
バスなど自動車(フェリー経由)	17	1.6%
その他	4	0.4%
無回答	112	10.5%

Q4. 新幹線の新函館開業後、関東地方へ移動する際に、新幹線を利用しますか。

n=1,068

	件数	構成比
利用しない(よほどの事でもない限り普段は航空機などを利用する)	395	37.0%
利用する	611	57.2%
わからない	48	4.5%
無回答	14	1.3%

新幹線を利用しない理由(複数回答のため構成比の合計は100とならない)

n=395

	件数	構成比
航空機のほうが乗っている時間が短いから	327	82.8%
羽田空港から目的地域までが便利だから	66	16.7%
新函館駅まで遠く不便だから	189	47.8%
航空機や空港のサービスが快適だから	15	3.8%
航空機のほうがチケット予約・購入や搭乗手続きが簡単だから	31	7.8%
航空機の運賃が安いから、またはマイルを貯めているから	69	17.5%
航空機の眺めのほうが楽しめるから	8	2.0%
業務上の理由	15	3.8%
その他	17	4.3%

新幹線を利用する都県の範囲(複数回答のため構成比の合計は100とならない)

n=611

	件数	構成比
栃木県	67	11.0%
群馬県	57	9.3%
埼玉県	111	18.2%
東京都	529	86.6%
神奈川県	123	20.1%
千葉県	81	13.3%
茨城県	48	7.9%

新幹線の利用意欲

n=611

	件数	構成比
利用機会を作っても(観光や出張など)乗りたい	106	17.3%
利用機会があれば必ず乗りたい	265	43.4%
利用機会の半分以上は乗りたい	129	21.1%
話の種に何回かは乗りたい	104	17.0%
無回答	7	1.1%

新幹線の利用目的としては

n=611

	件数	構成比
仕事を中心	105	17.2%
仕事も仕事以外も両方	311	50.9%
仕事以外が中心	190	31.1%
無回答	5	0.8%

新幹線の利用理由(複数回答のため構成比の合計は100とならない)

n=611

	件数	構成比
目的地までの所要時間が短いから	155	25.4%
乗換なしで目的地域へ行けるから	285	46.6%
下車駅から目的地域までが便利だから	198	32.4%
新函館駅まで行くのが便利だから	31	5.1%
運賃が妥当だから	51	8.3%
きっぷの予約・購入や乗車手続きが簡単だから	50	8.2%
運休(欠航)のリスクが少なかったり、移動時間が確実に読めるから	269	44.0%
車窓の眺めが楽しめるから	174	28.5%
飛行機が苦手だから	66	10.8%
その他	21	3.4%

Q5. 新幹線の新函館開業後、関東地方へ移動する用事が10回あると仮定すると、新幹線と新幹線以外の利用率はどれくらいになりますか。

n=1,068

	件数	構成比
新幹線 0回 新幹線以外 10回	106	9.9%
新幹線 1回 新幹線以外 9回	120	11.2%
新幹線 2回 新幹線以外 8回	157	14.7%
新幹線 3回 新幹線以外 7回	81	7.6%
新幹線 4回 新幹線以外 6回	47	4.4%
新幹線 5回 新幹線以外 5回	249	23.3%
新幹線 6回 新幹線以外 4回	28	2.6%
新幹線 7回 新幹線以外 3回	63	5.9%
新幹線 8回 新幹線以外 2回	45	4.2%
新幹線 9回 新幹線以外 1回	30	2.8%
新幹線 10回 新幹線以外 0回	75	7.0%
無回答	67	6.3%

【POINT】

新幹線と新幹線以外の全ての利用回数を合算し対比すると、
 新幹線利用意向数4,099回÷総利用回数10,010回（[1,068人-無回答67人]×10回）=40.9%
 となり、新幹線41：新幹線以外59という利用動向が予測されます。

Q6. 新幹線新函館開業後、関東地方へ出張や旅行をする全体的な回数について、どう思いますか。

n=1,068

	件数	構成比
増える	242	22.7%
減る	7	0.7%
今と同じくらい	539	50.5%
わからない	268	25.1%
無回答	12	1.1%

Q7. 北海道新幹線新函館駅は、現在の函館本線渡島大野駅(北斗市大野地区)の場所に造られますが、同駅までの距離感について、どのようなイメージをお持ちですか。

n=1,068

	件数	構成比
近いイメージ	89	8.3%
遠いイメージ	807	75.6%
どちらともいえない	167	15.6%
無回答	5	0.5%

Q8. 新幹線開業後に新幹線を利用する場合、新函館駅までの交通機関として、自分が最も多く利用すると見込まれるものはどれですか。

n=1,068

	件数	構成比
在来線鉄道	235	22.0%
路線バス	123	11.5%
タクシー	37	3.5%
自家用車A(国道5号函館新道経由)	370	34.6%
自家用車B(国道227号大野新道経由)	281	26.3%
その他の方法	17	1.6%
無回答	5	0.5%

※自家用車
合計
61.0%

Q9. 現在の在来線鉄道における函館駅～渡島大野(新函館)駅間の運賃・所要時間・運行頻度についてどんな印象を持ちますか。

運賃:350円について

n=1,068

	件数	構成比
安い	375	35.1%
高い	159	14.9%
どちらともいえない	523	49.0%
無回答	11	1.0%

所要時間:24～28分について

n=1,068

	件数	構成比
速い	65	6.1%
遅い	699	65.4%
どちらともいえない	286	26.8%
無回答	18	1.7%

運行頻度:上り13本・下り8本

n=1,068

	件数	構成比
充分	144	13.5%
不充分	516	48.3%
どちらともいえない	380	35.6%
無回答	28	2.6%

Q10. 新函館駅までの在来線鉄道アクセスについて、これが実現されれば利用したい、または、これは実現すべきである、と思われることをお選び下さい。

n=1,068

	件数	構成比
在来線と新幹線が素早く負担なく乗り継げる同一ホーム対面乗換の実現	494	46.3%
スピードアップによる所要時間の短縮や、運行回数の高頻度化	297	27.8%
途中駅の新設	12	1.1%
自宅から在来線駅まで向かう路線バスや、在来線駅の自家用車駐車場の整備	190	17.8%
特に求めるものはない	43	4.0%
その他	19	1.8%
無回答	13	1.2%

Q11. 在来線鉄道で新幹線駅へ向かう場合に、利用する駅をお選び下さい。

n=1,068

	件数	構成比
函館駅	588	55.1%
五稜郭駅	388	36.3%
桔梗駅	38	3.6%
大中山駅	12	1.1%
七飯駅	10	0.9%
江差線内各駅	10	0.9%
その他	7	0.7%
無回答	15	1.4%

Q12. 現在の路線バスにおける函館駅前・松風町～渡島大野(新函館)駅前間の運賃・所要時間・運行頻度について、どんな印象をもちますか。

運賃:640円について

n=1,068

	件数	構成比
安い	37	3.5%
高い	714	66.9%
どちらともいえない	300	28.1%
無回答	17	1.6%

所要時間:46～54分について

n=1,068

	件数	構成比
速い	4	0.4%
遅い	896	83.9%
どちらともいえない	145	13.6%
無回答	23	2.2%

運行頻度:16往復(1時間に1～2本)

n=1,068

	件数	構成比
充分	173	16.2%
不充分	497	46.5%
どちらともいえない	367	34.4%
無回答	31	2.9%

Q13. 新函館駅までの路線バスアクセスについて、これが実現されれば利用したい、または、これは実現すべきである、と思われることをお選び下さい。

n=1,068

	件数	構成比
値頃感のある運賃	115	10.8%
快速バスの運行による所要時間の短縮や、運行頻度の高頻度化	533	49.9%
リムジンバスなどグレードの高い車両による快適な移動	128	12.0%
路線の新設など、自宅(会社)最寄りからすぐに乗車できる路線網の構築	187	17.5%
特に求めるものはない	77	7.2%
その他	11	1.0%
無回答	17	1.6%

Q14. 現在のタクシーにおける函館駅前地区～渡島大野駅前間の運賃・所要時間について、どんな印象をお持ちですか。

運賃：小型車約4,800円について

n=1,068

	件数	構成比
安い	8	0.7%
高い	952	89.1%
どちらともいえない	98	9.2%
無回答	10	0.9%

所要時間：約30分について

n=1,068

	件数	構成比
速い	109	10.2%
遅い	346	32.4%
どちらともいえない	586	54.9%
無回答	27	2.5%

Q15. 新函館駅までのタクシーアクセスについて、これが実現されれば利用したい、または、これは実現すべきである、と思われることをお選び下さい。

n=1,068

	件数	構成比
乗合タクシーの運行による運賃負担の軽減	373	34.9%
乗合タクシー路線設定で、自宅や会社の最寄りからすぐに乗車できる環境	212	19.9%
特に求めるものはない	420	39.3%
その他	33	3.1%
無回答	30	2.8%

【POINT】

問8の意向と問10、問13、問15の意向を比較すると、市民の期待として「乗換負担の軽減」「運賃負担の軽減」「スピードアップ」が挙げられることがわかります。これらは新函館駅までの二次交通アクセスの利用増大策として、環境対策や高齢化対策の観点からも、自動車利用に過度に依存しない基盤整備と実践が求められているといえます。

Q16. 並行在来線である江差線の五稜郭～木古内間は現在JRが運行していますが、新幹線新函館開業に伴って、五稜郭～木古内間はJRの運行ではなくなる(経営分離)ことを知っていますか。また、経営分離されることでご自身は何らかの影響を受けますか。

経営分離について

n=1,068

	件数	構成比
知っている	331	31.0%
知らない	728	68.2%
無回答	9	0.8%

影響を受けるかについて

n=1,068

	件数	構成比
影響がある	127	11.9%
影響はない	573	53.7%
わからない	358	33.5%
無回答	10	0.9%

Q17. 江差線の経営分離に際しては、北海道や函館市、北斗市、木古内町で組織する「並行在来線対策協議会」において収支予測など代替交通機関の検討・調査を行い、概ね2～3年以内に対策が示される予定です。基礎資料とするため江差線の利用経験についてお答え下さい

n=1,068

	件数	構成比
現在も利用している	20	1.9%
過去に利用したことがある	223	20.9%
利用したことはない	802	75.1%
無回答	23	2.2%

利用目的

n=243

	件数	構成比
通勤・通学	29	11.9%
通勤・通学以外	169	69.5%
無回答	45	18.5%

利用頻度

n=243

	件数	構成比
年中ほぼ毎日	14	5.8%
冬期ほぼ毎日	1	0.4%
週1回以上	8	3.3%
その他	164	67.5%
無回答	56	23.0%

【POINT】

江差線利用経験については本調査の92.1%が函館市内在住・勤務者であるため参考指標といえます。また、影響について「よくわからない」とする回答が多く、より一層の情報公開が必要といえます。

Q18. 新幹線の札幌延伸に際しては、並行在来線である函館～札幌間の経営分離も見込まれていることから、当協議会では函館駅～新函館駅区間の利便維持のため関係先へ協力要請を進めていく予定です。

在来線と新幹線の円滑な乗り継ぎ方法として、新函館開業時に採用が検討されている同一ホーム対面乗換の仕組みが、札幌延伸の際は解消されると見込まれています。そのため、函館駅から札幌に行くためには跨線橋を上下する乗り継ぎが新たに生じることになりますが、このことについてどうお考えですか。

n=1,068

	件数	構成比
在来線との乗換利便は重要であり、対策を講ずるべきだ	753	70.5%
在来線との乗換利便は重要ではない	91	8.5%
よくわからない	206	19.3%
無回答	18	1.7%

新幹線札幌延伸のためには、並行在来線の経営分離について沿線自治体の同意が必要条件となっていますが、函館駅～新函館駅区間の経営分離の有無は現時点では不明であり、函館市のまちづくりを進める上で早期に対策を検討しなくてはなりません。新幹線の札幌延伸、函館市のまちづくり、新幹線アクセス対策、それぞれに深く関係している経営分離について、どうお考えですか。

n=1,068

	件数	構成比
JRによる運行が維持されるよう、対策を講ずるべきだ	357	33.4%
利用者の利便が維持されるのなら、JRによる運行にはこだわらない	518	48.5%
よくわからない	177	16.6%
無回答	16	1.5%

【POINT】

乗換利便の維持など札幌延伸時の対策は重要であるということがわかります。また、「よくわからない」とする回答も多いことから、より一層の情報公開が必要といえます。

Q19. 新幹線新函館開業は地域社会・地域経済にとって、どう作用するとお考えですか。

n=1,068

	件数	構成比
プラスに作用する→Q20へ	679	63.6%
マイナスに作用する→Q21へ	177	16.6%
変わらない	197	18.4%
無回答	15	1.4%

Q20. 新幹線新函館開業が地域社会にもたらすプラスの効果としてもっとも期待していることは。

n=679

	件数	構成比
交流人口や観光客の増加	478	70.4%
経済波及効果の拡大	184	27.1%
情報の迅速化	8	1.2%
その他	8	1.2%
無回答	1	0.1%

Q21. 新幹線新函館開業が地域社会にもたらすマイナスの影響としてもっとも懸念していることは。

n=177

	件数	構成比
ストロー現象による経済規模縮小	133	75.1%
並行在来線の維持問題	18	10.2%
企業間格差の拡大	11	6.2%
街の個性の均一化	3	1.7%
その他	10	5.6%
無回答	2	1.1%

Q22. 新幹線新函館開業は、函館駅周辺地域にとって、どう作用するとお考えですか。

n=1,068

	件数	構成比
プラスに作用する→Q23へ	407	38.1%
マイナスに作用する→Q24へ	404	37.8%
変わらない	217	20.3%
無回答	40	3.7%

Q23. 新幹線新函館開業が函館駅周辺地域にもたらすプラスの効果としてもっとも期待していることは。

n=407

	件数	構成比
買物客・観光客など賑わいの増加	274	67.3%
経済波及効果の拡大	114	28.0%
店舗の増加	15	3.7%
その他	1	0.2%
無回答	3	0.7%

Q24. 新幹線新函館開業が函館駅周辺地域にもたらすマイナスの影響としてもっとも懸念していることは。

n=404

	件数	構成比
買物客・観光客など賑わいの減少	94	23.3%
中心市街地としての存在感の低下	266	65.8%
店舗の減少	36	8.9%
その他	5	1.2%
無回答	3	0.7%

【POINT】

新幹線が地域に与える効果・影響として、函館地域全体として見るとプラスの予測が63.6%ですが、函館駅周辺地域についてはプラス予測が38.1%であり、マイナス予測と拮抗していることから、中心市街地としての拠点性と活性化策を一層アピールしていく必要があります。

Q25. 新函館駅は北斗市に所在することから、新函館駅舎の建設費については国・道・北斗市が負担することになっており、いまのところ函館市が費用負担する予定はありません。しかしながら、多くの利用者が住む函館市側から、新函館駅の駅舎機能などに関する要望を行う必要が生じた場合、その実現には困難も予想されます。こうした整備費用を伴う要望が生じた場合、函館市は新函館駅舎や駅周辺整備になんらかの財政協力を行っても良いと思いますか。

n=1,068

	件数	構成比
函館市は財政協力を行っても良いと思う	675	63.2%
函館市が財政協力する必要はないと思う	214	20.0%
よくわからない	143	13.4%
無回答	36	3.4%

事業所の経営者向け調査項目（n=659件）

Q101. 事業所の形態について

n=659		
	件数	構成比
本店法人(函館市・北斗市・七飯町のいずれか函館圏域に本店を置く)	562	85.3%
支店法人(函館圏域以外に本店があり、函館圏域に支社・営業所を置く)	73	11.1%
個人	15	2.3%
その他(任意団体含む)	1	0.2%
無回答	8	1.2%

Q102. 従業員数(パート含む全社員のうち、函館圏域に勤務する従業員)について

n=659		
	件数	構成比
従業員5人以下	230	34.9%
従業員6～20人	226	34.3%
従業員21人以上	201	30.5%
無回答	2	0.3%

Q103. 主たる業種について(複数に亘る場合は売上規模が最も大きい業種)

n=659		
	件数	構成比
農林漁業	6	0.9%
建設業	124	18.8%
製造業・電気ガス熱供給業	102	15.5%
情報通信業	9	1.4%
運輸業	26	3.9%
卸売・小売業	179	27.2%
金融・保険業	18	2.7%
不動産業	15	2.3%
飲食店・宿泊業	40	6.1%
医療福祉・教育・学習支援業	11	1.7%
他に分類されないサービス業	124	18.8%
無回答	5	0.8%

問104. 新幹線新函館開業に備えることを目的とした経営強化策(取引先や営業品目の拡大、業種拡大や転換、社員教育、組織再編等)を実施していますか。

n=659		
	件数	構成比
既に実施している	15	2.3%
現在検討中	71	10.8%
これから検討したい	302	45.8%
実施する必要はない	258	39.2%
無回答	13	2.0%

問105. 新幹線新函館開業が貴社の売上に与える影響について、どう予測していますか。

n=659		
	件数	構成比
大幅に増える	8	1.2%
少しは増える	196	29.7%
変化しない	385	58.4%
少しは減る	48	7.3%
大幅に減る	11	1.7%
無回答	11	1.7%